

### 一括質問 育児支援家庭訪問事業 具体的な内容は

その家庭の状況に応じ 専門職や家事育児ヘルパーなどを 派遣

もかわらず無<sup>\*</sup>園児の状態となつている家庭に、市はどのような支援を行うのか。 子ども家庭部長 利用希望者には、入所相談を常時受け付けている。一方で、市が保育所等への就園が望ましいと判断した家庭には、職員が手続きの支援を行い、施設利用に至らなかった場合も、育児支援家庭訪問事業をはじめとする子育てサービス等を紹介し、継続した支援を行っている。 議員 育児支援家庭訪問事業の具体的な内容は、



▲公園で触れ合う親子 おむね3か月から6か月の間、月に1回から4回程度、派遣する。 ※無<sup>\*</sup>園児：保育所や幼稚園等に通わない小学校就学前の子ども 移動市役所の導入について

### 一問一答 不登校特例校では どのような教育の展開が可能か

授業時数を縮小し 生徒の状況に合った無理のない 教育課程とすることができ

秋山としゆき 議員(市政) 国の調査によると、不登校児童・生徒数は9年連続で増加している。本市も同様の傾向にあり、従前の不登校の未然防止と早期改善を目指す取組の充実に加え、新たな不登校施策が求められると考える。 そのような中、不登校特例校の設置に向けて準備を進めていると思うが、その理由は、

教育長 不登校児童・生徒の学習・教育機会を一層充実させ、児童・生徒が今後の進路を主体的に捉え、社会的に自

### 一括質問 おくやみコーナーを 設置する考えは

他市の事例を踏まえて 課題を整理し検討を進めている

渡辺将 議員(都民) 死亡に係る市の各種手続を1か所で行うことができるおくやみコーナーを設置する市が、近隣でも相次いでいる。一方、本市では、死亡後の手続について、約2週間の間に世帯主変更届や介護保険被保険者証の返納等、遺族が最大で13課の申請窓口に行かなければならないと聞く。そこで、実際に手続きをされた方の反応は、

市民協働推進部長 これまで市民等から特段の意見などはないが、令和4年6月に一部

### 一問一答 通学路における 受動喫煙対策等について 今後の取組は

関係機関と連携し 通学路標示板による 啓発などに取り組む

増山あすか 議員(市政) 子どもが多数利用する公園や通学路などにおいて、たばこの受動喫煙やポイ捨ての取締りを強化してほしいとの声が多くあるが、屋外での喫煙防止に係る現在の取組と、今後の対策強化について聞きたい。

市長 市内の主要駅周辺を環境美化推進地区に指定しており、同地区内の駅周辺道路を喫煙禁止路線としている。 また、同地区以外において



▲たばこの火と煙から子どもを守りましょう

### 一括質問 小・中学校における 防災教育の課題は

学校・家庭・地域と 関係機関が連携した取組を 充実させる必要がある

高津みどり 議員(公明) 日本では毎年のように災害が起きていくが、子どもたちが多くの時間を過ごす小・中学校における防災教育の現状と課題は、



▲生徒と一緒に防災訓練

### 一括質問 自閉症・情緒障害に係る特別支援教育 S D G s 達成の視点からは

子どもたちが一人ひとりが持つ能力を 学びの場で最大限に伸ばし 自立と社会参画を目指していく

遠田宗雄 議員(公明) 自閉症・情緒障害特別支援学級の設置を望む声があるが、本市には現在設置されていない。 そのような中、対象となる児童・生徒の生活状況を、市はどのように把握しているのか。

教育長 当該児童・生徒は特別支援教室に在籍し、自立活動や個別学習等に取り組んでいると認識している。 また、同教室入室に至る過程でも、保護者と面談を行うなど、実態把握に努めている。 議員 特別支援教室がインク

### 一括質問 貸付奨学金について償還猶予など 新たな仕組みを導入する考えは

卒業後の地域貢献などの 視点も意識し 調査・研究していく

奈良崎久和 議員(公明) 平成14年に一般質問で、市の奨学金制度の拡充を求めたが、その後、国の制度が大幅に拡充されるなど、修学支援の状況は変化してきている。そこで、市の奨学金制度の現状と今後の在り方を聞きたい。

教育長 申込者数が全体的に減少している傾向があり、特に貸付事業では顕著である。 今後は、国の制度拡充を踏まえ、市の奨学金制度とのすみ分けなどを検討していく。 議員 利用者の仕事や年収などの実態を踏まえ、一定の条件のもと、貸付奨学金の償還を猶予するなど、新たな仕組みを導入する考えは。 また、貸付奨学金の金額拡充や大学生等に対象を拡大する考えは。 教育長 貸付奨学金の償還猶予などについては、財源の確保を念頭に、学生の卒業後の地域貢献や市内における人材確保などの視点も意識し、調査・研究していく。 また、貸付奨学金の拡充についても、財源確保などの課題を踏まえ、調査・研究していく。